

学生生活支援体制（北海道科学大学）

1. 健康支援

毎年、全学生を対象に、学校保健安全法に基づく定期健康診断を実施しています。健康診断で問題が見つかった場合は、指定学校医で受診し、適切な指導・治療を受けられる体制になっています。

また、毎年新生を対象に、喫煙を防ぐための防煙教育、過度な飲酒によるアルコールの害について、注意喚起しています。

学内の講義棟（A棟）に医務室を設置し、怪我や急な体調不良に対応しています。また、毎月第4水曜日に学校医（内科）、第2・4木曜日に学校医（精神科）による健康相談日を設け、病気や身体的な悩み等、健康に関する学生の相談に応じています。

医療機関で治療を受ける学生への経済的支援を目的として、本学独自の互助組織である「学生医療互助会」が運営されています。昭和53(1978)年に設立され、当初は任意加入でしたが現在は全学生が加入し、会員を代表する学生と教職員により組織された「運営委員会」が運営にあたっています。「学生医療互助会」では、学生が学内外、時間を問わず疾病や不慮の事故等により医療機関にかかった際、健康保険適用範囲内における医療費の給付、後遺障害を被った場合の見舞金の給付、死亡に至った場合の弔慰金の給付を行っています。

2. 心理的支援

心理的な問題を抱える学生のための相談室として、専門のカウンセラーを配する学生相談室を講義棟（A棟）に設置し（休業期間を除く平日の10：30～17：00）、電話、電子メール、郵便、オンラインでの面談等、学生が利用しやすい方法で相談を受け付けています。精神的理由から身体的病症を併発し医務室を訪れる学生も増加傾向にあり、医務室、あるいは各種相談に応じているクラス担任と連携を取りつつ、対人関係から学業まで幅広く学生の悩みに対応しています。

セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント等の人権問題には、「人権委員会」が窓口となって対応しています。新生ガイダンスにおいて、ハラスメント等の被害に遭ったときの対処方法、「人権委員会」による支援体制について説明しています。また、相談窓口について記した本学独自のパンフレットを作成・配架し、本学ホームページ上では、ハラスメントガイドラインを公開し、ハラスメントの予防や啓発に努めています。

3. 障がい学生支援

教員や学生課、学生相談室等の複数の窓口で相談を受け付けており、障がいや病気による修学上の困難や不自由に対する支援にとどまらず、学生生活全般の支援を行っています。北海道科学大学障がい学生支援基本指針に基づき、必要に応じた適切な支援を行うことで、障がいなどの有無にかかわらず、すべての学生が本学における教育研究その他の活動に参加できるよう、個別に検討し、より高い目標に挑戦できる教育環境を目指しています。

4. ポートフォリオ・PF面談

学生が設定した在学中の目標を中心に、クラス担任と行う個別面談を、PF面談といいます。履修計画並びに各学年・各学期を経ての卒業までの到達目標を立案し、目標設定に関する助言を受けることや、学生生活全般についての相談の場として年4回実施しています。計画や目標の達成度を検証し、その記録を「ポートフォリオ」として作成しています。

また、PF面談で使用した面談シートや面談で得られる学生個々に関する情報と資料は、学内ネットワーク上でアクセス可能で、情報の登録および閲覧（本人・担当教員）ができるようにしています。各学生はそれぞれ、自分のノートPCなどから常時アクセス可能となっています。